

都市再生整備計画 事後評価シート

角田交流拠点地区

平成31年3月

宮城県 角田市

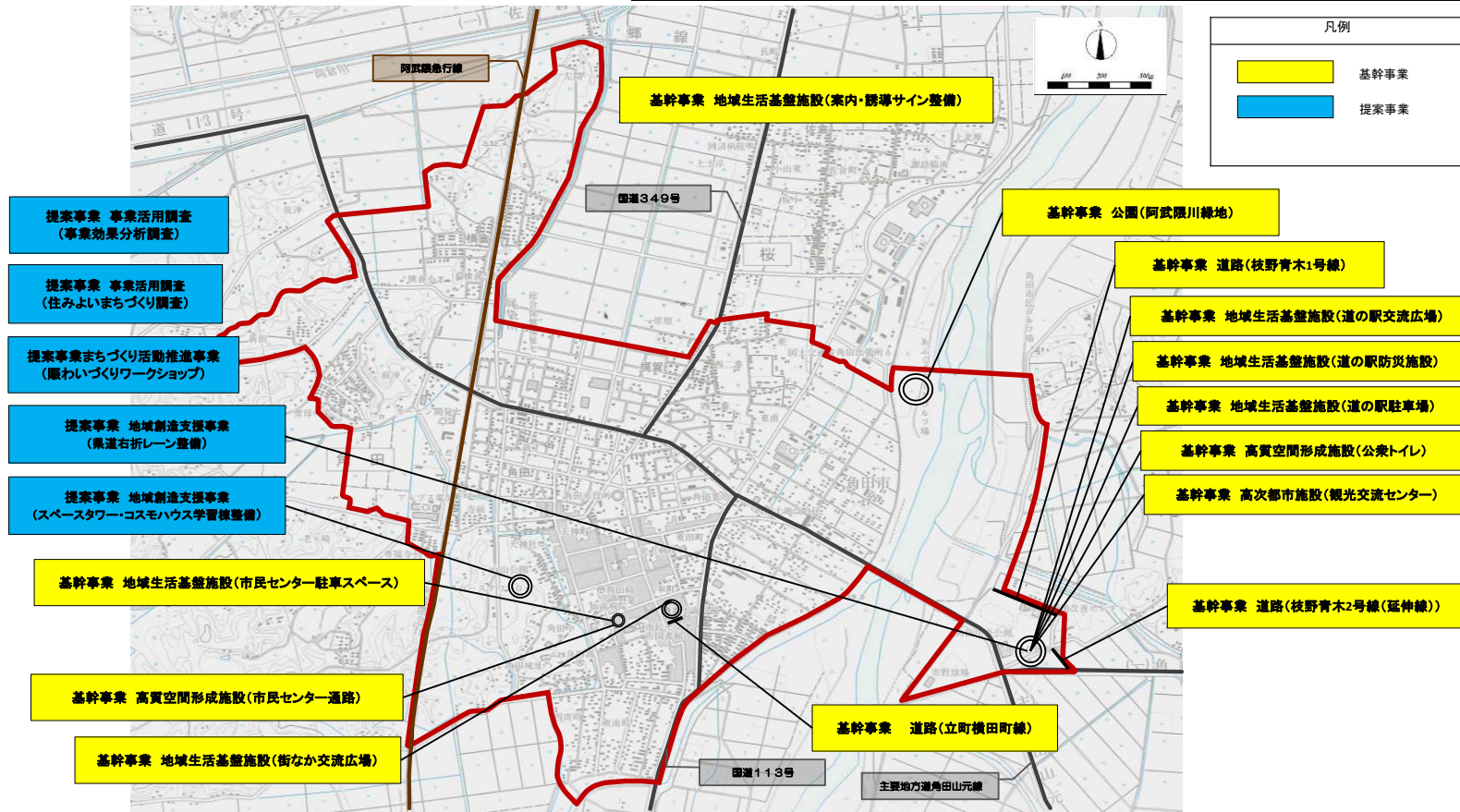
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	宮城県	市町村名	角田市	地区名	角田交流拠点地区			面積	784ha				
交付期間	平成25年度～平成29年度		事後評価実施時期	平成30年度		交付対象事業費	1,108.6百万円	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(立町横田町線、枝野青木1号線)、公園(阿武隈川緑地)、地域生活基盤施設(道の駅交流広場、市民センター駐車スペース、街なか交流広場、案内・誘導サイン整備)、高質空間形成施設(公衆トイレ、市民センター通路)、高次都市施設(観光交流センター)										
		提案事業	地域創造支援事業(子ども宇宙科学学習館)、事業活用調査(事業効果分析調査、住みよいまちづくり調査)、まちづくり活動推進事業(賑わいづくりワークショップ)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		提案事業	地域創造支援事業(子ども宇宙科学学習館)	事業名称の変更			名称変更であり、目標、指標、数値目標への影響なし						
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(枝野青木2号線(延伸線))、地域生活基盤施設(道の駅防災施設、道の駅駐車場)	賑わいの交流拠点施設整備基本計画策定に伴う事業の追加			指標1、2に影響するが、大きな影響を与える変更ではないため、目標値は据え置きとする。						
提案事業		地域創造支援事業(スペースタワー・コスモハウス学習棟、県道右折レーン)	事業名称の変更 賑わいの交流拠点施設整備実施計画策定に伴う事業の追加			名称変更であり、目標、指標、数値目標への影響なし 指標1、2に影響するが、大きな影響を与える変更ではないため、目標値は据え置きとする。							
交付期間の変更	当初	平成25年度～平成29年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	交流人口	人/年	660,000	H23	800,000	H29	-	829,867	○	あり	・賑わいの交流拠点施設の供用開始前であるものの、道路、駐車場、案内・誘導サイン等のインフラ整備に加えて、スペースタワー・コスモハウス学習棟が整備され、施設の利用者の増加、新規イベントの開催等により交流人口が増加した。	
											なし		
	指標2	定住人口	人	31,364	H24	30,100	H29	-	29,643	×	あり	・角田交流拠点地区において、住みよいまちづくりを目指し、各種事業を展開してきたが、一定程度の効果があったと思われるものの、少子高齢化の進行等により人口減少が加速的に進んだことで目標達成には至らなかった。	平成32年6月
										なし			
指標3	学習会・企画展の開催回数	回/年	0	H25	12	H29	-	13	○	あり	・スペースタワー・コスモハウス学習棟が整備され、学習会・企画展として「わくわく星空塾」、「コスモハウス宇宙ツアー」等を開催した。		
										なし			
指標4										あり			
										なし			
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	その他の数値指標1	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
4) 定性的な効果発現状況													
5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	・なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	住民参加プロセス	・賑わいづくりワークショップを実施し、実施結果を反映した「賑わいの交流拠点施設整備実施計画」を策定した。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				・今後も地域住民や事業者と連携を図りながら、賑わいの交流拠点施設整備後の利用状況等について把握し、随時改善の方向性を検討する。						
持続的なまちづくり体制の構築	・市民により組織されている角田市行政経営推進委員会において、事後評価を行うこととしている。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				・角田市行政経営推進委員会を継続的に開催し、本市の計画策定等に関する検討を行う。							

様式2-2 地区の概要

角田交流拠点地区(宮城県角田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 「人と地域が輝く 田園交流都市 かくだ」の都市像の実現を目指す。	交流人口	単位: 人/年	660,000	H23	800,000	H29	829,867	H29
目標1 訪れる人々が安らぎと親しみを持ってまちづくりを図る。(交流・連携)	定住人口	単位: 人	31,364	H24	30,100	H29	29,643	H29
目標2 市民誰もが住む喜びと誇りを抱き、魅力あふれるまちづくりを図る。(移住・定住)	学習会・企画展の開催回数	単位: 回/年	0	H25	12	H29	13	H29
目標3 探究心を満たし、創造力豊かな輝く人材を育むまちづくりを図る。(創造・探究)								



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・枝野青木1号線、枝野青木2号線(延伸線)、県道右折レーン整備等により、賑わいの交流拠点施設(道の駅交流広場、道の駅防災施設、道の駅駐車場、公衆トイレ、観光交流センター等)へのアクセス性が改善された。 ・賑わいの交流拠点施設が整備されたことで、本市の一体的な情報発信やフードコートでの食事の提供が可能となった。今後、様々な地域資源の有機的な連携が図られるとともに、角田中央公園等のスポーツ・レクリエーション施設の利便性向上や、増加した広域的道路ユーザーが休憩する施設として環境整備が図られた。 ・東日本大震災により被災した市民センターの改修と併せ、市民センター駐車スペース、市民センター通路、立町横田町線、街なか交流広場等の整備により、被災前のように市民交流・文化交流が行える環境整備が図られた。 ・スペースタワー・コスモハウス学習棟の整備により、角田市のシンボルとなっている「H-IIロケット」や「ロケットエンジン」等の展示物等のより効果的な活用を図ることができ、子ども達が「宇宙」に関して学習できる環境整備が図られた。 ・あぶくまパークゴルフ場の整備により、コースバリエーションの増加を希望する利用者からの要望に応えるとともに、シルバー世代の増加に伴う市内外の競技者の増加にも対応した施設として環境整備が図られた。 ・角田交流拠点地区において、住みよいまちづくりを目指し、各種事業を展開してきたが、定住人口の増加に繋がるはつきりとした効果はまだ見られない。 ・案内・誘導サインの整備により、本計画で整備された施設等に効果的に誘導するとともに、回遊性を高める環境整備が図られた。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の利用者が利用しやすいよう、各種施設の円滑な運営及び適切な維持管理に努める。 ・子ども達の宇宙への求知心を満たすよう、イベント・学習会等の開催及び施設の適切な維持管理に努める。 ・移住・定住が図られるよう、新たな移住支援制度の構築及び生活しやすい住環境の整備に努める。 ・賑わいの交流拠点施設等の整備効果を活かして、本市の周知・PRを図り、交流人口の拡大から定住人口の増加へと展開できるように施策を検討する。